

人生の転機

Turning point

ヨシケイ開発社長
林 雅広
Hayashi Masahiro



然と感じたことを覚えていました。

その後、私は大学を卒業し、電動工具メーカーで働きました。国際営業部というところで6年半ほど働いた後、1989年に両親が経営するヨシケイ松山（現フードサポート四国）に入社することになりました。

当社は北海道から沖縄まで、全都府県65社のフランチャイジー、289の営業所から、約50万世帯に食材の宅配サービスを提供するフランチャイズグループの本社です。専属栄養士が考えたバランスのとれたメニューに必要な食材セットを、毎日お客様の自宅まで届けておられます。

私が高校生の頃、父が創業まもないヨシケイのフランチャイジーになることを決めました。私自身は家族会議を開いた時に、夕食の食材はスーパーで買って帰るものではないのか？ 食材の宅配がビジネスとして成り立つか？ と、漠

数ヵ月仕事ができないと言わされましたから、とにかく本部や取引先との電話に奔走。すると全国の営業所で余っている営業車を融通してくれたり、食材を調達してもらったりして、何とか達成できました。

この時は全国の仲間から救いの手を差し伸べてもらい、涙が出るほど嬉しかったし、多くの人に支えられている仕事だなと改めて実感しました。それまで、親から引き継いだこの仕事を

父の死から2年後の1998年9月25日未明、高知周辺をゲリラ豪雨が襲いました。時間雨量130ミリ、4時間で360ミリという記録的な豪雨に見舞われ、高知市東部は甚大な被害を受けました。川が氾濫したため、当社工場の冷凍・冷藏設備が浸水。1階の天井近くまで水があふれ、30台弱あった営業車も使えなくなってしまったのです。

大企業から中小企業、そして海外の仕事からローカルな仕事へ転換したこと、当初は戸惑いだらけ。6年ほどして父も他界したため、とにかく大変な日々を過ごしていました。

かける仕事なんだろうか？ と、心のどこかに疑問が残つたままでした。だが、ヨシケイグループの仲間の素晴らしさを感じ、これ以降は心を入れ替え、自分自身、本気になつて仕事を取り組もうと思え

した。これが、私にとつて大きな転機となりました。

6年前の東日本大震災の時も被災対応に追われましたが、この時も高知での被災経験が生き、改めて全国の仲間たちの絆を強く感じることができました。

近年はシニアや仕事・子育て・介護で忙しい共働き世代の増加で宅配ニーズが増えています。今後も主婦の毎日の献立や買い物の悩みを当社が解決できるよう、グループ一同、頑張っていきたいと考えております。

1998年の高知水害



豪雨被害から復旧する際、仲間のありがたさを強く感じたという